

在学生と保護者の  
皆様へ

College of International Relations/Junior College (Mishima Campus)  
Nihon University



令和3年3月1日発行 年2回発行  
日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）広報誌

# Campus Life

No177 2021.3



正門前の銀杏並木



三島駅北口校舎  
～クリスマスイルミネーション～



雪化粧をした富士山(三島市内より)



日本大学国際関係学部長

### 渡邊 武一郎

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年度は世界中が大きな困難に直面した一年となりました。そのような中、後学期はゼミナールや一年生対象の全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」など、一部で対面授業を開始し新入生の皆さんを初めてキャンパスに迎えることができました。前号でもお知らせしましたが、これからも教職員一丸となって、授業運営のための様々な工夫を継続していきます。

(5ページ参照)

日本大学では学生の感染防止のため、すべての学部等で学生を対象とした健康観察システムを導入(3ページ参照)しています。学生のキャンパスへの入構は健康状態が良好でないと認めておりません。今後も学生の安心・安全を守ることを第一に考え、引き続き新型コロナウイルス感染症への対策にも努めて参ります。

また本学部では令和2年12月19日(土)・20日(日)に日本大学で唯一オンラインによる学部祭「富桜祭」を実施しました。厳しい環境の下、オンラインを通じ、少しでも“国際関係学部学生としての一体感を醸成したい”という思いから実施の決断をしました。運営を主導した、学生生活副委員長、富桜祭実行委員長からのコメントや活動風景写真を今号に掲載しております。(4ページ参照)

また、コロナ禍でも懸命に就職活動に取り組んだ学生から、内定を勝ち取ったという多くの報告も受けています。様々な分野の内定者からの就職活動体験記を紹介していますので是非ご覧ください。(6・7ページ参照)

卒業を迎える4年生と保護者の皆様、本学の卒業生として、次のステージでの更なるご活躍を祈念いたします。在学生と保護者の皆様、引き続き厳しい環境の下ではありますが、本学として様々な対応をこれからも実行いたします。

今後も日々の授業や留学をはじめ、部・サークルの活動において何らかの制限が予想されます。学生・保護者の皆様におかれましては様々なご苦勞や不安を抱かれていることと存じます。日本大学国際関係学部・短期大学部(三島校舎)は教職員が一丸となり、皆さんのサポートに精一杯努める所存です。

皆様、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### 令和3年度前期スケジュール

4/2 開講式  
4/3 授業開始  
4/8 入学式(日本武道館)

7/3 英語統一試験  
7/8～7/16 到達度確認期間  
7/21 前期授業終了  
7/22～7/23 定期試験(諸課程)  
7/24 夏季休暇開始

8/26～8/27  
追試験

9/16 夏季休暇終了  
9/17 後期授業開始



## 健康観察システム・健康相談について

新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでの当たり前の日常生活は一変しました。特に、大学生は、オンライン授業が中心となり、思い描いていた学生生活を送る事が困難な状況が続いています。「新しい生活様式」を意識し、「3密（密集、密接、密閉）」を避けて、学生自身が正しい感染予防の知識と人権を尊重した意識を持つと共に、自分自身と大切な家族、友人等を新型コロナウイルス感染症から守る行動を自ら積極的に行いましょう。

### 「日本大学健康観察システムによる健康管理」の実践

自分自身の「健康観察」を毎日行うことで、常日頃から自身の体調に意識を向け、その変化を把握しておくことが重要です。毎日、朝・晩2回の検温を行い、日本大学健康観察システムに、体温・体調や行動履歴を記録し、「健康観察（管理）」の習慣化に取り組みましょう。

発熱や風邪症状などで体調が優れない場合は、通学・外出を控え、無理せず休養に努めましょう。

\*「日本大学健康観察システム」  
利用方法



### 心と体の健康相談について

新型コロナウイルス感染症の流行とその対策の影響を受けて、生活の変化により、眠れない、疲れがとれない、食欲がない、ストレスや不安を感じるなど、心や体の不調を感じやすくなります。気になる症状や心配なことが続く場合は、保健室または学生支援室までご相談ください。

※現在、非対面（電話、web）による相談にも対応しています。



#### ◇からだの健康に関する相談

（予約制）



【学校医】  
毎月第1、3水曜日  
15:00 ～ 16:00

#### ◇こころの健康に関する相談

（予約制）

【精神科医】 毎月2回、不定期  
※日程については、UNIPAの「学生課のお知らせ」を確認してください。

お問合せ

保健室（12号館1階）  
電話：055-980-0851



#### ◇臨床心理士によるカウンセリング

（予約制）

火～金曜日 10:00 ～ 17:00  
（最終受付は16:00までとなります。）

お問合せ

学生支援室（12号館1階）  
電話：055-980-0850

### 【卒業】に関する日程

国際関係学部・短期大学部（三島校舎）

3月 6日（土）  
卒業・修了決定者発表

3月25日（木）  
卒業式

日本武道館（午後の部 14時～）

3月26日（金）  
学位記・修了証書等伝達

三島駅北口校舎（14時～）

※卒業式、学位記・修了証書等伝達ともに父母の入場は不可となります。

※卒業式、学位記・修了証書等伝達に出席する学生は、「日本大学健康観察システム」への入力が必要となります。

※新型コロナウイルス感染症拡大により変更が生じた場合は、学部ホームページ等で早急にお知らせします。

### 三島キャンパス 告知板

【保護者配信メール（さくら連絡網）

未登録者の皆様へ】

本学部では、さくら連絡網にご登録済みの保護者の皆様へ原則毎月一度、大学から情報を発信しております。ご登録いただきますとLINE等で情報を受け取ることが可能となります。未登録で新規登録をご希望の場合は、庶務課（電話 055-980-0801）へお問い合わせください。

▶配信内容例

「台風接近による荒天が予想されるので、令和〇年〇月〇日の講義は休講します。」

「令和〇年〇月〇日に成績発送を行いますので、ご確認をお願いします。」

「本学部〇〇部が、全国大会に出場します。引き続き、ご声援の程宜しくお願いします。」

## 第70回 富桜祭 オンライン開催



### 学生生活 副委員長から

国際教養学科

橋本 由紀子 教授

(主担当:ヨーロッパ言語文化研究)

### 第70回オンライン富桜祭報告

令和2年12月19日(土)と20日(日)の2日間、記念すべき第70回富桜祭が開催されました。例年は10月下旬に行われていたこの祭典が、今年度はコロナ禍の影響で、クリスマス・シーズンにオンラインで行われました。他学部では軒並み文化祭中止を発表する中、三島キャンパスの富桜祭実行委員会は諦めることなく、「何とか長年続いてきた伝統の系を繋ぎたい!」と奮闘し、この新しいアプローチによる富桜祭を実現させました。

それは決して簡単な挑戦ではありませんでした。これまで受け継がれてきた企画やイベントは一度白紙に戻さざるを得ず、代わりに三島キャンパスでの学生生活や活動をいかに発信できるか、オンラインならではの方法が模索され、実行委員会と大学教職員、業者の方々との打合せを通して、コンセプトの確定、参加団体の募集、地域との連携、広報活動、動画撮影・編集と、少しずつ歩が進められました。

公開された4つのメインコンテンツのうち、まずゼミシアターでは、世界の様々な国と地域、分野にまたがった、驚くほど個性的な取り組みが並べられました。次いでクラブシアターでは、シアターという名にふさわしい多彩な音、動き、絵姿が展開されました。そこに見出されたのは、変わらぬ学生の笑顔と弾けるエネルギーでした。さらに地域物産展では、地域の皆さまのご協力のもと、三島の地が持つ魅力、すなわち素敵なお店の数々、快いホスピタリティ、穏やかな時間の流れ等が紹介されました。そしてクリスマスプレゼントとしての抽選会は、+αのお楽しみとして祭りを盛り上げました。

携わってきた学生たちや関係者の熱意はもちろん、何より興味を持ってくださった方々のご参加(視聴)があってこそ、第70回富桜祭は成功の内に幕を閉じました。伝説とは、後世に語り継がれる過程の中で作られていくものですが、その可能性を大いに持つ文化祭になったのではないのでしょうか。



### 富桜祭 実行委員長から

国際総合政策学科 3年  
井上 雄祐さん

本年度、記念すべき第70回目の富桜祭を令和2年12月19日(土)・20日(日)にオンラインにて開催しました。

コロナ禍で他学部の文化祭の中止が相次ぐ中、前例のないWEBを用いた文化祭を日本大学で唯一、開催できたのは、“どんな困難にも負けずに、一生懸命に活動していることを知ってもらい、関わる人たちを元気にしたい!”という三島キャンパスの学生たちの思いによるものだと思います。

また、今回の富桜祭が掲げた「ここ(国際・短大)から始まる7つの輪 #We are ...」というテーマの下、実行委員会・学生(協力者及び参加者)・教職員・受験生・保護者・協賛企業・地域社会の“7つの輪”の相互理解と協力が、富桜祭開催へ向けた大きな原動力になったことは間違いありません。

なお、今に紡いできた富桜祭の伝統が、このコロナ禍で途切れないためにも、従来の運営方法やコンテンツを根本的に見直すなど適者生存できる方策を打ち出す中で、

一番のメリットは、“世界中のどこからでも富桜祭へ参加できること”でした。従来であれば、決められた日時に実際に三島キャンパスへ足を運ばなければ分からない富桜祭の雰囲気などを、オンラインで繋がる世界の人々に対し、手軽にかつ身近に感じてもらえるチャンスとなりました。そして、オンライン上に“勇気・元気・笑顔”を与えられるコンテンツの“魅せ方”に努めたことで、結果、2日間(視聴者集計対象期間)のみで13,197名の方々に参加いただくことができました。

こうして第70回富桜祭での“自主創造”を体現すべく大きな挑戦により、多種多様な気づきやノウハウを得られたことは、自分の人生にとっても大変有意義な機会となりました。この貴重な経験とともに、“7つの輪”をはじめとした多くの人々に支えられた富桜祭が、これから先、何十年、何百年、何千年もの時を越えて繋がっていくことを切に願う次第です。



動画撮影風景



学生課との打ち合わせの様子



全収録終了後の安堵の様子



当日のトップページの様子



2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンラインによる開講となりました。しかしながら、学修効果の向上等に鑑みて、1年生全員が履修する初年次教育「自主創造の基礎」及び2年生から履修する「ゼミナール」は対面授業を可能としました。このページでは、その一部様子をお知らせします。

## 自主創造の基礎（対面実施）を終えて



### 自主創造の基礎

国際総合政策学科

眞嶋 麻子 助教

(主担当:国際技術協力論)

日本大学には全学部1年生の共通必修科目「自主創造の基礎」があります。本学部では、毎週火曜日5時限に開講されており、すべての1年生がそれぞれのクラスで、クラスメイトやクラス担任と共に、履修方法、授業の受講方法、レポートの書き方、キャリア・デザインについて学んでいます。

後期には、メンタルヘルスや文系学問を学ぶ意義、就職活動の基本等についてのオンライン講演会に加え、感染症対策が万全な状態で、対面授業も再開しました。事情があってオンライン参加を希望する学生にも対応しましたので、対面とオンラインとのハイブリッド授業です。科目の特性上、対面・オンラインにかかわらず、クラスメイトとの交流・雑談や授業への不安についての相談、履修計画の相談にも多くの時間を使っています。2年次以降は希望した専門コースに分かれて、学修を継続していくことになります。1年次で身につけた学びのスキルを使って、今後の大学生生活を切り開いていってほしいと思います。

国際総合政策学科 1年 岡庭 健太さん

待望の対面授業は「自主創造の基礎」で行われました。対面授業は入学当初から大半の学生がずっと待ち望んでいた授業形態です。ある実家暮らしの学生は、この授業が始まるまで同じ学部生に会ったことがなかったと話していました。いつ対面授業が打ち切りになるかわからない状況でしたが、一人でも多くの友達を作りたいと思いわざわざ九州から泊まりがけて授業に臨んだ学生もいます。

キャンパスで初めて授業を受けて、前期のオンライン授業に対するもどかしさがまとめて一気に吹き飛んだ感覚がありました。1時間ほどの授業でしたが、みんな和気あいあいとした雰囲気、気軽に話しかけられる空気ができあがっていました。

私は直接コミュニケーションをとることが好きなので全ての授業に参加しました。対面授業の回数は少ないものの、その分1回1回が大切な思い出になりました。在学中に本来の大学生活ができることを信じて、新入生を迎え入れたいと思います。



## 対面ゼミナール実施



### 矢嶋ゼミナール

国際総合政策学科

矢嶋 敏朗 准教授

(主担当:国際観光政策)

矢嶋ゼミナールは、ツーリズム産業について学ぶゼミです。私は実務家教員なので「産官学連携」プロジェクトを現場に出る実践が中心となります。最低限のフィールドワーク実施により、以下のとおりゼミ展開しました。感染予防を図りながら試行錯誤の連続でした。

3年生(17名)は、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの補助金を獲得し、伊豆の国市(伊豆長岡温泉)の「eバイク(電動自転車)」を利用した観光マップを作製する予定で、本来、街中をくまなく歩いて、地図を作製する予定でした。しかし、新型コロナウイルスにより訪問回数が限られ急遽「eバイクプロモーション動画」作製に変更。事前下見1日、本番2日で撮影は完了(私は1人で複数回下見には行きましたが)。以降は、教室で撮影に協力頂いたプロカメラマンにもオンラインで参加頂き、動画コンテやシナリオ作成を中心に展開しました。内容的には不満の残るものの、最低限のプロモーション動画(6分)は完成したと考えています。

2年生(13名)は、後期からの活動。産学連携先が、三島駅前の富

士山三島東急ホテルのツーリストラウンジ運営補助。ホテルで配布するマップの作製や販売促進協力をします。ホテルが近いので訪問も可能+総支配人が来校しゼミにも頻繁に参加。また、ホテルの親会社東急(株)の観光戦略担当者も来校やオンライン参加くださいました。コロナ渦、三島にいて一流企業との連携(職場訪問や社員と頻繁に接触)ができたことは、ハッピーでした。開講し半年なので大きな成果物はありますが、対面ゼミの運営により、ゼミHPの開設等研究テーマ以外の活動も活発化、一安心しています。

ゼミナールは、学生相互や社会の方と直接触れ合い学ぶ授業。特に本ゼミでは、社会との接触により、就職後のキャリア形成への寄与を念頭においています。新型コロナウイルス感染予防に留意しながら、ゼミ運営を工夫していきます。

ご覧下さい。

矢嶋ゼミナールHP(2年生)

HP:<https://sites.google.com/view/yajimaseminar/>



伊豆の国市PR動画撮影風景



富士山三島東急ホテル視察

## 就職最前線・就職内定者たちの声

このコーナーでは、大学4年生、短大2年生、専攻科2年で全国の様々な分野への内定を勝ち取った方の手記を紹介します。  
就職活動時「日本大学」は武器となります。しかし、大切なのは学生本人の夢(キャリアビジョン)や就活時の努力です。参考には是非お読みください。



国際関係学部  
国際総合政策学科 4年  
**大嶋 翼さん**  
内定先:長泉町役場

私が長泉町役場に志望した理由は、今まで自分を支えて育ててくれた故郷である長泉町に自分が少しでも役に立ちたいと思ったからです。

私が就職活動において大切にすることは、自分の夢を叶えるための成功へのビジョンを思い描くことです。ビジョンとは、現実的には可能性が低くても、考えることが大切だと思います。

成功するためには「準備」が必要不可欠です。計画を立て、行動を分析し、時間を見積り、自分が今何を最優先すべきか、タイムスケジュールを決める、などが準備に含まれる部分だと思います。

長泉町は人口約4万3千人。三島駅へ徒歩、東京へ新幹線通勤の方も多く、人口増加率や出生率は静岡県内トップ。今後も人口増加が見込まれ「奇跡の町」と言われています。

私は長泉町で、住民がどんな些細なことも相談できる課の創設を考えています。「すぐやる課」や「くらし安心課」などの課が存在する地方自治体もあり、長泉町独自の住民のための課があるのではないかと思います。長泉町の都市ブランド戦略でもある「ちょうといいが、いちばんいい」からネーミングは「ちょうといい課」とネーミングするのが夢です。

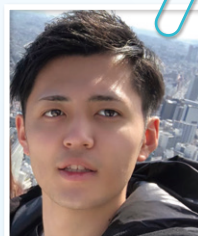


国際関係学部  
国際教養学科 4年  
**永井 晴菜さん**  
内定先:清水建設株式会社

私は大学での授業を通して「いつか海外で働いてみたい」と思い、これを軸に就職活動をはじめました。まずは業界を絞らずに説明会やインターンにたくさん参加しました。そこで建設業が海外派遣の機会が増えている業界だということを知り、清水建設にエントリーしました。就職活動で最も努力したことは企業研究です。企業の歴史や実態を本やインターネットなどを通して調べ尽くすだけでなく、本学OBを紹介いただき、三度のOB訪問を実施しました。調べていくうちに会社への愛着が増し、面接でもそれが伝わったことで内定に繋がったと思っています。

最も苦労したのは志望動機です。どうやってその企業を知り、入社したいと思ったのか、企業としても最も学生に確認したいことだと思います。よく使われるのは、「学生時代のこんな経験を貴社で生かせると思ったからです」という形ですが、特に文系の学生は大学で学んだことが、そのまま生かされる職場は少ないと思います。しかし、どの職場でも必要な事はコミュニケーション能力と粘り強さだと私は思います。学生のうちに部活動やサークル、アルバイトで組織の中でコミュニケーションを通して活躍した経験や粘り強くなにかに組み込んだ経験しておくことが大切です。

就職活動には正解がありません。どんなに面接練習をしても、そのとおり面接が進んでいく事はほとんど無いと思います。しかし、準備に時間をかけ、努力することが自信につながり落ち着いて面接に挑む事ができます。全ての努力が無駄でないと信じて、後輩達にも後悔の無いように就職活動を終えてほしいです。



国際関係学部  
国際総合政策学科 4年  
**工藤 峻祐さん**  
内定先:株式会社 七十七銀行

私は、地元東北の地域経済の発展に貢献出来る仕事をしたいという考えがあり、数多くの業種の中から銀行を選びました。コロナウイルスが猛威を振るい続ける中で就職活動ということもあり、より一層、経済向上に貢献したいという思いが私の中で大きくなりました。また、七十七銀行は、ある調査の東北地区の就職希望ランキング1位の難関です。その七十七銀行では、特に面接が重視される印象があり、自己分析と面接練習を重点的に取り組みました。

豊富な専門知識を必要とする銀行員が私には務まるのかとても不安ではありましたが、内定を頂いたことを機に、私の中での意識も変わり、先日、証券外務員1種を取得することができ、銀行員としてスタートラインに立つことが出来ました。入行後は、経験したことのない金額を取り扱い、多くの企業の方と仕事をしていくことになりますが、失敗から学び、1歩ずつ確実に成長していけるよう、頑張っていきたいと思っています。

後輩の皆さんは、これからの就職活動、不安もあると思います。人生一度きりです、自分の夢に向かって思い切り挑戦してみてください。

大学生活で、最高の友人と過ごした時間は、私にとって大きな財産となりました。沢山の友人、大学まで通わせてくれた両親に心から感謝しています。



国際関係学部  
国際教養学科 4年  
**小林 桃子さん**  
内定先:株式会社 パレスホテル

私は、大学に入学する前から目指していた業界がありました。その目標の実現のために授業を履修し、留学、ワーキングホリデー、インターンなどにも参加してきました。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で第一志望であった業界の採用はなくなり、その他多くの会社から採用中止の連絡が届きました。その度に悔しい思いをしましたが、自身の働く上での軸を見つめ直し、視野を広げる努力をした結果、今後一生働きたいと思える会社に出会うことができました。

また、「就活は団体戦」という言葉があるように、お互いを支え合い、高め合える友人と協力することの大切さを実感しました。同じ目標を持つ友人と何度もエントリーシートを読み合い、SPI 対策や面接練習を共に行いました。また、有難いことに先輩方も力を貸してくださり、たくさんのアドバイスをいただきました。パレスホテルは、丸の内のパレスホテル東京をはじめ、全国5ホテルやレストランを複数運営する日本の5つ星ホテルです。入社後は、就職活動中に支えてくださった方や家族に立派な社会人としての姿を見せることで恩返しをしていきたいと考えています。

そして、こういった厳しい状況の中、採用してくださった会社への感謝の気持ちを忘れずに、会社の一員としての責任を持って仕事に励みたいです。

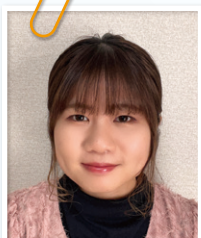


## 学生の皆さんも保護者の皆さんも 大学生活の大きな関心事は将来のキャリア(就職)

国際関係学部の就職率 **95.7%**

令和2年5月1日現在 (就職希望者に占める就職者の割合)

グローバル化する社会ではあらゆる業界で本学部の卒業生の活躍が期待されます。中でもサービス業においては、これからの成長産業として期待される観光関連企業に進む人が目立ちます。



国際関係学部  
国際教養学科 4年

**一瀬 ありさん**

内定先:小田急電鉄株式会社

私は安全安心で各駅停車からロマンスカーまでの多種多様な輸送を提供し、お客様と一番向き合っている会社だと感じ、小田急電鉄に入社を決めました。

鉄道業界を就職先として考える上で特にプラスとなった経験は、留学とアルバイトです。育った環境や世代が異なる人々と交流し、語学力やコミュニケーション能力だけでなく多様性も身についたと感じています。また、アルバイトは個別指導塾で、留学生活では現地の学生と言語交換をしました。これらの経験を通して、様々な人と交流しながら、その人達を支えることに大きなやりがいを感じました。

就職活動中は自分の性格、今までの経験や目標にしている事を考慮しながら、企業研究や選考を受けました。また、限られた場の中で自己アピールすることに不安があったため、就職指導課で面接練習やエントリーシートの添削を何度もいただきました。

将来は大学生活でお世話になった方々に感謝しながら、その中で培った語学力や知識、多様性を生かし、お客様に一番近い鉄道員として、鉄道の安全運行をはじめ、地域・観光活性化等多くの人々の生活を支援たいです。



短期大学部  
ビジネス教養学科 2年

**増田 菜々子さん**

内定先:大井川農業協同組合

私は、1年次の8月にインターンシップに参加したことをきっかけに就職活動を始めました。金融機関における2週間の就業体験を通じ、静岡県の企業の事業活動や人々の生活を支える地方金融業界の業務内容を学び、魅力に感じました。2年次の3月より、金融業界に絞り選考を受け、内定をいただくことが出来ました。

選考を受ける中で、私は3つのことに力を入れていました。1つ目は、自己分析です。自分の過去の経験を客観的に俯瞰、自身の性格や強み・弱みを分析し、自分の興味や適性のある仕事を定めることが出来ました。2つ目は、業界研究です。志望業界・企業のビジネスモデルや市場規模などを幅広く調べました。この段階を踏むことで、説得力のある志望動機を作成することが出来ました。3つ目は、設備の準備です。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でリモート面接が行われました。そこで、画面に自分の姿が明るく映るような照明の準備や接続が途切れないようにLANケーブルを使用するなど、万全な態勢で面接を受けられるように工夫しました。

先が見通せず大変な時期ではありますが、在学生の皆様が夢の実現に向けて進むことが出来るよう応援しております。



短期大学部  
食物栄養学科 2年

**伊藤 梨乃さん**

内定先:株式会社 東洋食品

私の家は精肉店と惣菜店を営んでいます。小さい頃から両親や祖母が沢山のお客様に美味しい料理を提供し、笑顔にしているところを間近で見ていて私も食べ沢山の人の笑顔にできる仕事がしたいと思っていました。ただ美味しい料理で笑顔にするだけではなく、沢山の人の健康を食の面からサポートしたいと思い栄養士になる事を目指し本学に入学しました。

私は2年生の春から就職活動を始めました。私は最初、栄養士をやりたいという事は決まっていたのですが、どの業種で就職したいのか悩む日々が続きました。そんな時、給食管理実習の授業で実際に自分たちでメニューから考え、大量調理を行いました。授業を通して大量調理の楽しさを知り、私の中で学校給食センターに就職し、児童に喜んでもらえるような美味しい給食を作り、児童の成長を応援したいという気持ちが芽生えました。

私は内定を頂くまでにはまず先生に相談することから始めました。自宅から通える範囲の給食センターは本学には求人が来ていませんでしたが、先生のアドバイスのおかげで給食センターの委託先である株式会社 東洋食品の面接を受けることができ、栄養士として内定頂くことが出来ました。就職活動では一人で考えるだけではなく相談することも大事だと思いました。

相談に乗ってくださった先生、応援してくれた家族への感謝の気持ちを忘れず、一生懸命励んでいきたいと思っています。



短期大学部  
専攻科食物栄養専攻 2年

**大西 元気さん**

内定先:戸田中央医科グループ  
熱海所記念病院

私は幼い頃から食べることが好きで、食の喜びを共有できる食に携わる仕事がしたいと思い本学に入学しました。

就職活動を始めた頃は食品メーカーなどの一般企業にエントリーしていましたが、しかし、エントリーシートの志望動機を書くに当たって、この企業で何がしたいのか、また面接では「食に関わる仕事なら他の職種でもあるのではないかと指摘され、自分の考えの甘さを痛感しました。改めて就活の軸を見つめ直していた時期に、専攻科の校外実習で1週間病院に行きました。そこで現場で働く管理栄養士の方から栄養士の仕事のやりがいなどのお話を伺い、また実際に栄養指導などを見学させていただき、私も管理栄養士を目指したいと思うようになり、栄養士への就職を決めました。管理栄養士の資格取得に向け仕事と両立しながら頑張りたいと思います。

最後に、在学生のみなさんへ。就職活動中は何度も辛い思い悩みから心が折れそうになりますが、自分のやりたいことを明確にし、自分に自信を持って頑張ってください。

## ゼミ学生等地域貢献推進事業に採択（公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム）

安元ゼミナールでは、公益社団法人「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が主宰する「ゼミ学生等地域貢献推進事業」に応募、採択され、活動経費の助成を受けて2つの成果をまとめた。



国際教養学科  
安元 隆子 教授  
(主担当:比較文学論)

### 安元ゼミナール

皆さんは静岡県が日露交流の原点の地であることを知っていますか？1854年、日露通好条約締結のために下田に來航したプチャーチン一行は、ディアナ号が大地震による津波により損傷し、修理のために西伊豆の戸田へ向かいます。しかし、荒天により船は沈没。富士の宮島付近の人々が人道的な救助活動を行いました。そして戸田で日露が協力して代替船（ヘダ号）を建造し、彼らは無事に帰国できたのです。

しかし、この史実の認知度は低いです。そこで安元ゼミは日露語の絵本やすごろく、福笑い、ペーパークラフト・ヘダ号などを製作し、この史実を広める活動を続けてきました。今年度は「ふじのくに 地域・大学コンソーシアム」の補助金を得て、この史実ゆかりの地を巡るパンフレット「日本とロシアの絆～下田・富士・戸田の旅～」1500冊と、「ディアナ号・ヘダ号に関する記録目録」100冊を制作しました。「旅の冊子」はゼミ生の取材を基に研究成果を加え、QRコードを入れて各地の詳細も知らせる工夫をしました。「記録目録」は、稀少な文献保護のための「世界の記憶」への日露の共同申請を目指した、日露両国に存在するこの史実に関する当時の記録を集めた日露語の目録です。これらは3市の博物館、地域自治・国際交流・観光政策課、道の駅、学校等に配架されました。専門家からは各市の枠を超えたり取り組みであることと、この史実に関する初めての国境を越えた記録目録の果たす役割を評価されました。

私たちは、これらの活動を通して日露交流の原点の史実が広まり、日露の友好が深まることを願っています。



「日本とロシアの絆  
～下田・富士・戸田の旅～」



「ディアナ号・ヘダ号に  
関する記録目録」



「富士市の歴史学習船・ディアナ号  
にて郷土史家の講義を聴く」



「富士市・三四軒屋緑道公園にある  
ディアナ号の錨を取材」

## 在学生に読んでもらいたい本の紹介



外山 滋比古  
『思考の整理学』  
(筑摩書房、1986年)

国際教養学科 安酸 香織 助教 (主担当:歴史学(西洋史))

本書は、私自身が大学1年時に出会い、感銘を受けた一冊です。著者の外山氏は、学校が受動的に知識を習得する「グライダー養成所」に化していることに警鐘を鳴らし、記憶と再生に長けたコンピューターが登場した今、自ら学び、考え、創造していく力、いわば「飛行機能力」を養成する必要を訴えています。

同書が刊行された1980年代には上記のとおり「コンピューター」ですが、今や、より高度な「人工知能(AI)」の開発と実用化が進んでおり、人間にしかできない創造的思考の重要性はさらに増しています。まして新型コロナウイルスの影響で社会が変容しつつある今、既存の枠組みにとらわれない自由な発想が欠かせません。

しかし、長らく教師と教科書に引っ張られて勉強してきたグライダー人間が、いきなり大学や社会でエンジンを搭載して自ら飛び立つのは容易ではありません。本書は悩める学生の特効薬ではないですが、考えるためのヒントに満ちており、必ずや日々の学びを創造的なものにするのに役立つでしょう。ぜひ多くの学生に手に取ってもらいたいです。



編著・発行  
一般社団法人  
Think the Earth  
『未来を変える目標  
SDGsアイデアブック』  
(2018年)

図書館事務課 伊藤 佳乃 課員 (図書館司書)

SDGs(持続可能な開発目標)は、2030年までに世界中のあらゆる国が協力し、より良い未来をつくろうと2015年に国連が採択した17の目標です。

本書は、SDGsについて子どもから大人まで誰もが楽しく学べる内容になっています。17の目標それぞれの説明と現状、そして実際に国内外で行われた対応策を「未来を変えたアイデア」として紹介しています。事例を知ること、自分だったらこんなことができるかも」と読者にひらめきを与えてくれます。

SDGsの目標達成に正解はありません。科学技術の進歩や情報社会の発展によって、これまで予想できなかったようなことが実現し、それが世界で生じている課題の解決につながる可能性があります。また、日常のほんの小さなアクションでもSDGs目標達成の一步となります。国連寄託図書館に指定されている当館では、館内の展示やホームページでSDGsについて紹介しています。

大学生が自分の生活、そしてその後の将来の姿や世界の状況を想像し、今自分にできる行動のヒントを与えてくれる一冊と言えるでしょう。

現在、図書館は予約制で開館していますので是非ご利用ください。